

単元名: 旅先での体調不良者対応ハンドブックを作ろう

科目名	中国語	作成日	-	作成者	プロジェクトメンバー
学年/年次	-	クラス人数	-	使用教科書と課	-
話題分野	からだと健康	言語レベル	1	必要時間数	5~6時間

I 単元目標

上海からの高校生を迎えるにあたり、体調不良時の対応ハンドブックを中国語で作成し、実際に来訪した際に役立ててもらおうとともに、フィードバックを得て、自分たちが中国に訪問した際にも活用できるハンドブックに仕上げることができる。

	言語	文化	グローバル社会	学習者	教室外	他教科
わかる	😊	😊	😊			
できる	😊	😊	😊	😊	😊	😊
つながる	😊					

言語領域	文化領域	グローバル社会領域
<ul style="list-style-type: none"> ◆「訪日団」の中に体調不良の生徒がいた場合は、中国語で具合を尋ね、保健室に連れて行くことができる。 ◆ネットや辞書・書籍で調べた表現・語彙から必要な情報を読み取る。 ◆体調が悪い時に必要な中国語の表現、語彙を載せたハンドブックを作る。 ◆具合の悪い相手を気遣いながら、コミュニケーションをとることができる。(コミュニケーション・ストラテジー) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆体調不良時の看護の方法について日中比較し、傾向を分析することができる。 ◆体調不良時に薬以外に口にするもの、してはいけないものについて日中比較し、傾向を分析することができる。 ◆学校の「保健室/医務室」の業務について比較することができる。 ★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆グループで話し合い、協力してハンドブックを作成することができる。(協働) ◆PCで日中両言語併記のハンドブックを作成することができる。(情報活用) ◆外国への長旅をする際など、普段と異なる生活環境や文化環境の中での健康管理について考えることができる。(知識理解) ★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。

コミュニケーション能力指標	<p>【からだと健康】</p> <p>1-a. からだの部位や体型の特徴(やせている/太っている、背が高い/背が低い、足が長い/短いなど)について、口頭でまたは書いて表現できる。</p> <p>1-c. からだの調子(疲れているか、気分が悪いかなど)について、言ったり尋ねたりできる。</p> <p>1-d. 病院や保健室に行きたいと言ったり、行くことを勧めたりできる。</p> <p>1-e. 身近な薬で必要なもの(風邪薬、痛み止めなど)を、言うことができる。</p>
	<p>★言語領域の「できる」の目標を設定する際に参照した指標。他の領域の目標設定とも連動している。数字は【言語レベル-指標表番号】を表示している</p>

II 評価

学習を助けるための評価 (形成的評価)	目標達成度を測る全体的評価 (総括的評価)
<ul style="list-style-type: none"> ◆必要な語彙や表現の筆記/聞き取り小テストをする。(表記や表現の正確さ、理解度) ◆二人一組で体調の悪い生徒とそれを気遣う生徒の設定でロールプレイをする。(発音の正確さ、表現の適切さ、相手を気遣う態度等) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ハンドブックを作成する。(情報の過不足、参照しやすいような構成上の工夫、中国語表記の正確さ等)

Ⅲ 学習活動		
プレコミュニケーション活動 (語彙・表現習得活動)	コミュニケーション活動 (学習シナリオ)	
<p>◆二人一組で立ち、一方の生徒が自分の体のある部分(おなか・頭など)を指差し、もう一方の生徒はその中国語名称を言う。指すスピードを徐々に上げていき、言えなくなったら座る。最後まで残ったペアが勝ち。【1-a】</p> <p>◆二人一組で、体調の悪い生徒とそれを気遣う生徒という設定でロールプレイ。【1-c, d,e】</p> <p>◆中国語表記を記した薬の箱を並べ、客の言う症状に合わせて薬を出す薬局やさんごっこをする。(例:「頭が痛い」と言われたら、「頭痛薬」を渡す。)(【1-c,e】)</p> <p>★【 】内は対応するコミュニケーション能力指標</p>	<p><場面状況> 上海の「高校生訪日団」がM高校を訪れることになった。中国語のクラスの生徒たちは万全の準備を期すため、体調の悪い生徒が出た時のためのハンドブックを中国語で作り、中国の高校生に渡すことにした。</p> <p><活動の流れ> まず、体に問題が出たとき、怪我をしたとき、助けが必要な時などに必要な表現や語彙を日本語で考える。グループごとに担当する分野を決め(具合の悪いことを言う/尋ねる表現、気遣いの言葉、体の部分名称、医薬品名等)、中国語の表現を調べ、それらをまとめてハンドブックを作成する。実際の状況を想定してロールプレイもおこなう。 「訪日団」の生徒や付き添いの先生たちにハンドブックを渡し、使い方を説明する。わかりにくい点や不適切な表現を引率教師に指摘してもらおう。「訪日団」の中に実際に体調不良の生徒がいた場合は、中国語で具合を尋ね、保健室に連れて行く。 中国人の生徒が帰った後、今回の経験について話しあい、それをもとに自分たちの学校の生徒が中国に修学旅行に行く際に役立つように、体調が悪い時に必要な中国語の表現、語彙を載せたハンドブックを作り、中国語を学習していない生徒たちに、ハンドブックをどのように使うかを説明する。</p>	
<p><使用教材・教具> PC、インターネット、辞書</p>		
表現と表現のポイント	語彙	文化・グローバル社会事象と事象のポイント
<p><表現> 你哪儿不舒服?/你脸色不好,怎么了?/有点儿累了。/有药吗?/头疼吗?/去医务室休息一下。/我想去医院看病。/休息一下就好了。/你不用担心/要不要喝水?/可能着凉了。/多穿点儿衣服。/好好儿休息。/多多保重。</p> <p><表現のポイント> 疑問詞“哪儿”、主述述語文、“有点儿”、有～吗?、連動文、“一下”、助動詞“想”、“～就好了。”、“不用”、反復疑問文、副詞“可能”、文末助詞“了”、“多”+動詞+“(一)点儿”、“好好儿”+動詞</p>	<p>体の部分名称(頭、胃、肚子、手、脚、眼睛、耳朵、肩膀、腰、膝蓋)、医薬品名(中药、西药、感冒冲剂、抗菌素、西瓜霜、清凉油)</p>	<p><事象> ◆具合が悪い時の対処法 ◆飲食上の注意 ◆「保健室」の役割 ◆外国への旅と体調管理</p> <p><事象のポイント> ◆具合が悪い時に一般にどのような看護をするか。 ◆薬以外に何を食べたり、飲んだりするか(食べたり、飲んだりしてはいけないものは何か)。 ◆「保健室」で何ができるか/できないか等の日中比較。 ◆外国への長旅が珍しくない今日、普段と異なる生活環境や文化環境、医療環境にある渡航先での健康管理について考える。</p>
教室外(人・モノ・情報)との連繫		他教科の内容との連繫
中国の高校生		保健体育